ボランティアの心

三味線携え慰問活動26年

亀田俊彦（音文１期・北区会）

平成５年９月、第1期生として音文コースに入学。楽しい日々を送っていた矢先、平成7年1月17日の早朝、あの忌まわしい阪神淡路大震災が発生し、神戸は甚大な被害を蒙り、学生たちもほとんどが被災者となりました。幸いカレッジには大きな被害はなかったものの長期休校となってしまいました。学生たちの間から「何かお手伝いをしよう」との機運が高まり、私もその一員として、しあわせの村の体育館で各地から送られてくる救援物資の仕分け作業に携わりました。ここで初めてボランティア活動というものを経験しました。

4月から休校中のカレッジが在校生に開放され、5月にはいくつかのボランティアグループが誕生しました。私は「人形劇」に参加し、現在も「人形劇ほたる座」の一員として、劇中音楽の三味線を担当しております。

また、音文コースの有志で、あちこちの施設へ慰問に出かけたのもこの時期でした。コーラス、クラリネット、キーボード、箏、私は三味線…にぎやかなメンバーで6月に六甲の館（北区）を訪問、皆さんと楽しいひと時を過ごして、喜んでいただきました。

趣味の三味線でも活動をしようと、同好者6人と「三味線　弥音会」を結成しました。折よく「東灘地域助け合いネットワーク」から依頼があり、東灘区内の瀬戸公園仮設住宅、深江仮設住宅や各地域の「ふれあいサロン」を訪問し、合奏を聴いてもらったり、一緒に童謡や懐メロを歌ったりして、非常に喜ばれました。吹雪の戸外で演奏したこともあり、今では楽しい想い出として残っています。

現在も月に5か所の施設を訪問していますが、私自身の健康の糧として、できるかぎり続けていきたいと思っております。＝写真は2011年の学園祭で

（亀田氏は11月に本稿を執筆後、12月2日に逝去されました。ご遺族の了承をえて遺稿を掲載します）

神戸っ子応援団の仕組み学ぶ

第３回学習支援者の集いを11月15日、シルバーカレッジ２階で開催。神戸市教委から講師3人を招き、“神戸っ子応援団”の仕組みについて説明を受けました。神戸っ子応援団は市内82の中学校区毎に応援団組織を立ち上げ、学校（応援団組織づくり）、地域（学習・学校支援への協力）、神戸市（応援団運営と財政支援）の３者が相互に連携し合って子どもの健全育成を地域ぐるみで応援する仕組みです。7年前から学習支援ボランティア活動をしてきたグループ〈わ〉には、特に大きな期待がかけられているようです。

講演後の質疑では、「車椅子児童に付き添って階段を上下移動するのは重労働で体力的に大変だ。エレベーターを設置するなど所用の工事をしていただけないか」といった切実な悩みや疑問が次々に出されました。講師からは「そうしたケースでは、予算措置が講じられエレベーター設置申請が学校から出されている筈だ。学校側に確かめてみて欲しい」など具体的なアドバイスや回答がありました。学習支援現場の生の声を行政当局者に聴いてもらえたことは、今回の大きな収穫でした。（学習支援委員会　加藤勇治・美10 北区会）

北区会が「かがやきの森」見学

北区会の親睦ハイキングと里山見学会が11月14日に行われ29人が参加しました。神鉄・谷上駅～森林植物園のコースを歩き、途中、里山和楽会が4年前から取り組んでいる〈かがやきの森〉再生活動を見学するものです。午前10時、和楽会代表・道満俊徳さん（生13）の案内で、1時間がかりで里山に到着。4班に分かれ、会員から植生や整備状況の説明を聞きながら1時間かけて間伐作業や３ヘクタールの広い山林を見学しました。すでに5割ほどが整備され、散策コースとなっているそうです。ホオノキやコウヤボウキなど貴重な樹木には説明板があり、展望台には鳥瞰図を設置して散策を楽しいものにする工夫がしてありました。このあと、30分ほど歩いて森林植物園へ。紅葉だよりでは「みごろ」でしたが、鮮やかさはもう一つ。食事を済ませて、園内を思い思いに散策して散会しました。（北区会）

●親睦グラウンドゴルフ　北区会の45人が参加して球技場で10月26日に開催。3人で1チームを作り、10ホールを2回まわる方式。2時間の熱戦の末、吉田智彦さん（生6）が45点で優勝。アミューズでの昼食懇談会で表彰されました。2位は中川正俊さん（国5・46点）、3位は河野八重子さん（福7・49点）でした。　（北区会）